



藤井 基弘 医師
(吉備医師会から)

在宅医療をご存じですか。外来や入院のような検査・治療はできませんが、薬の処方管理や点滴管理、酸素吸入、体調管理などをしながら、自宅療養を継続するのが在宅医療です。医師、看護師、薬剤師、ケアマネジャー、介護福祉士などの専門職が、患者さんの「自宅で過ごしたい」という思いに寄り添い、在宅医療を支援しています。

今月のテーマ 在宅医療

在宅医療 どんなとき どうしたら

●どんなとき

「自宅にすることが幸せ。医療を受けながら自宅で過ごしたい」という思いが、在宅医療を利用する動機となります。外来で受診することは難しくなってきたけれど、できれば入院はしたくないと感じたら、在宅医療の利用を検討してみましょう。具体的には、次のようなことがきっかけとなります。

- ▼脳卒中による寝たきりで、通院が困難
- ▼毎日点滴管理が必要だが、入院はしたくない
- ▼パニック障害で外出できない

問い合わせ 健康医療課健康増進係 (☎ 0866-92-8259)

が、ほかの病気の治療が必要
▼末期がん状態だが、住み慣れた自宅で過ごしたい

●どうしたら

在宅医療を始めるときは、医師の紹介状が必要です。希望するときは、まずかかりつけ医に相談してください。かかりつけの病院に医療連携室があるときは、そこに相談することもできます。介護保険を利用している場合は、ケアマネジャーにも相談しましょう。在宅医療に関わる専門職の間で患者さんに関する情報共有を行い、連携して在宅医療を行います。

安全・安心

総社署からのすすめ

冬期は、路面凍結や積雪によるスリップ事故が多発する傾向にあります。冬の運転時に、特に気を付けていただきたいポイントを4つお伝えします。

●冬用タイヤの装着

積雪、凍結の対策として冬用タイヤを装着しましょう。「オールシーズンタイヤ」と呼ばれる全天候対応型のタイヤがありますが、降雪状況によっては走行できない場合があります。装着

冬期の交通事故防止

しているタイヤがどのような状態の道に対応しているか、あらかじめ確認しておきましょう。

●フロントガラスの視界の確保

気温の低い日の朝などに、フロントガラスがカチコチに凍ってしまい、前が見えなくなることがありますが、フロントガラスに氷が残っている状態では、決して運転しないでください。一部分の氷を除去し、進行方向が見えるようになったとしても、残っている氷に光が乱反射することがあり、とても危険です。運転前に全ての氷を取り除きましょう。

●安全な速度での走行

監修・問い合わせ 総社警察署 (☎ 0866-94-0110)

日陰や橋の上は凍結しやすいため、雪が降っていなくても、走行には注意が必要です。速度が出ていれば、スリップ事故が起こりやすくなります。路面状況を常に確認し、安全な速度で走行するようにしましょう。

●「急」がつく運転は厳禁

雪道や凍結路での急発進や急加速、急ハンドル、急ブレーキは厳禁です。車がスリップし、コントロールできなくなる恐れがあります。危険を予測しながら、慎重に運転するよう心掛けてください。減速の際は、フットブレーキだけでなく、エンジンブレーキも活用しましょう。

1月臨時市議会

新庁舎建設工事の請負契約締結議案を可決



令和6年度中に完成を予定する新庁舎のイメージ

1月12日、臨時市議会が開催され、総社市新庁舎建設工事の請負契約を締結する議案3件が原案どおり可決されました。

契約金額は、総額で約75億8720万円。内訳は、建築主体工事が53億1300万円、電気設備工事が約12億1767万円、機械設備工事が約10億5652万円です。

各工事は、落札した建設業者などで構成する共同企業体によって、今後2年間の工期で進められます。

問い合わせ 総務課行政係 (☎ 0866-92-8218)

11月定例市議会が11月30日から12月21日までの会期で開催され、一般会計補正予算や条例の制定など、議員提出の議案1件を含む24案件が審議されました。
一般会計補正予算は、8億8700万円の増額。主なものは、新型コロナウイルス感染症対応の中、物価高騰の影響で負担が増加している福祉施設や医療機関を支援する物価高騰対策支援金に1億3350万円、妊娠期からの相談支援

と妊娠・出産時の経済的支援を一体的に行う事業に7800万円、新型コロナウイルスのオミクロン株対応型ワクチンの接種などに係る経費約3億円などです。JR総社駅舎にデジタル表示板を設置する経費に關しては、時計のみの設置を検討した上で予算を執行するよう付帯決議がなされました。

条例については、デジタル情報をまちづくりに活用していく「総社市デジタル」で人にやさしいまち推進条例」の制定や、市議会議員や市長、教育長などの報酬・給与月額を増額改定する条例の一部改正などが可決。人とペットの共生社会の実現を目的とし、災害時にペットの同伴が可能な避難所を開設することなどを定める条例案は、ペット避難所の開設を条例に明記することで避難所の臨機応変な運営が制約されかねないなどの理由により否決されました。



議 会

11月定例市議会に24案件を審議
問い合わせ 総務課行政係 (☎ 0866-92-8218)

物価高騰の影響を受ける福祉施設などを支援

新型コロナウイルス・インフルエンザの同時流行に備えましょう

県内では3年ぶりにインフルエンザが流行期に入り、新型コロナウイルスとインフルエンザが同時流行する危険性が高まっています。感染が拡大すれば、さらなる医療ひっ迫につながります。同時流行に備え、ワクチン接種や体調不良時の準備をしておきましょう。

▼感染拡大前のワクチン接種(新型コロナ・インフルエンザ)をご検討ください

▼体調不良時に備えて、新型コロナ抗原定性検査キットや解熱鎮痛薬、食料品・生活必需品などの備蓄(1週間程度)を準備しておきましょう

※新型コロナ抗原定性検査キットは、国が承認したものを選びましょう

問い合わせ 新型コロナウイルス感染症対策室 (☎ 0866-92-8278)

そうじゃ総合教育会議を開催

1月10日、市長や教育委員、市の関係者が出席する「そうじゃ総合教育会議」が総合福祉センターで開催されました。

20人以上の学級や放課後児童クラブで新型コロナウイルス感染者が発生した場合、学級閉鎖・閉所の基準を緩和する案を提案。教育委員からは、学びの確保のためには妥当とする意見などが出されました。また、部活動の地域移行について進捗状況を報告。今後の進め方や指導者の確保などについて意見交換し、4月以降に可能な部活動から外部人材による指導を積極的に進める方針や大学との連携を検討していることが示されました。

同会議での意見を踏まえ、教育委員会が協議。学級閉鎖・閉所の基準について、提案のとおり基準を緩和することを決定しました。

問い合わせ 政策調整課 (☎ 0866-92-8213)